

平成26年（2014年）5月1日（木）～3日（土） 残雪の燕岳登山  
レポート by 吉松

3年振りの燕岳（2763m）登山にチャレンジしました。

当初は、熊本さんをリーダーとして半澤さん、堀さん、石井さん、吉松の計5人で登る予定でしたが、リーダーがまさかの急性盲腸炎。

手術後の大事を取って熊本さんは参加断念。急遽吉松が俄かリーダーになって残雪の燕岳登山を決行することになりました。

夜来の雨が5月1日6時くらいまで降っていましたが、徐々に雨脚は弱くなり我々がバスに乗るころは何とか天気も持ち直してきました。

予報によれば2日、3日は快晴らしく、絶好の登山日和を予感させました。

5月1日（木曜日）曇り のち 晴れ



7時40分ごろ、新宿バスターミナル待合室に全員集合。

26番ターミナル8時発の「さわやか信州号 KO5501便」で安曇野穂高まで移動。平日の所為か車内はかなり余裕があって、快適なバス移動となりました。



連休中ということもあって道路渋滞を懸念しましたが、それも杞憂に終わりバスは順調に走りました。双葉PAでしばし休憩。

208号バスが我々乗車のバス。



一路安曇野穂高へ。

写真では良くは見えませんが、車窓からは御嶽山も遠望出来ました。



11時35分、安曇野穂高バス停で下車。歩いて4、5分の場所にJR穂高駅のこじんまりした駅舎がありました。



穂高駅近くの信州そば「一休庵」が、熊本さんお薦めの店。そこで昼食をとることにしました。



風情のある店内でありました。

半澤さん：もりそば

堀 さん：もりそば大盛（写真の一番手前）

石井さん：鴨せいろ大盛

吉松 : 結いそば



これが、もりそば大盛。相当食いでがったようです。



これは吉松が頼んだ「結いそば」。

安曇野産の「わさび」と石巻特産の「油麸」「わかめ」に、「とろろ」「かつおぶし」なども添えた温かいお蕎麦でした。



信州そばを堪能したところで、「一休庵」玄関で写真一枚。



穂高駅から中房温泉行きのバスを利用する予定でしたが、バス発車時刻には間があったので石井さんの機転でタクシーを利用。途中野生のサルの群れなどを眺めながらの約60分の快適ドライブ。

当初予定よりも30分早く、13時5分に本日宿泊の国民宿舎「有明荘」に到着しました。乗車料金はほとんど変わらず、バスなら4人で6800円のところ、タクシーは7100円也。



チェックインは15時、まだしばらくは部屋に入れない。

荷物を有明荘の休憩所に預けて、足慣らしのため、熊本さんお薦めの「有明荘裏山周遊」をすることにしました。



天気は益々良くなり、新緑の散策は実に気持ちが良いものでした。



10分も歩かないうちに、「たる沢の滝」「三段の滝」の標識が我々を迎えてくれました。



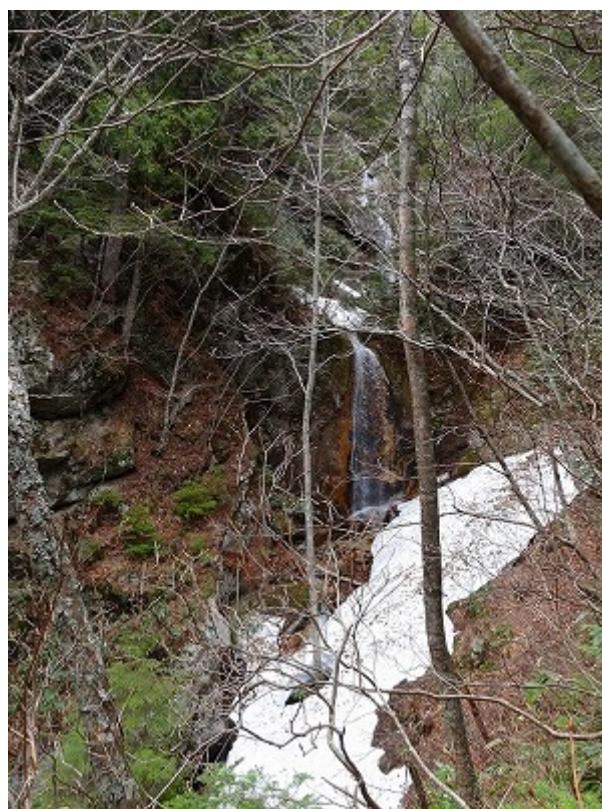
「たる沢の滝」

15mほどの滝で水量も多くはないが、その水は有明莊に引かれて貴重な飲料になるそうです。滝近くには「大小便厳禁」との注意書きが出ていました。

その一方で周遊道には獣の立派な糞が沢山落ちていましたが、あれは我々宿泊者が飲む有明莊の飲料水との関係ではどういうことになるのだろうか？



皆さん、盛んにシャッターを切っています。



更に登ったところに「三段の滝」



60分ほどの裏山周遊で、明日への足慣らしが出来ました。



連休とは言え今日は平日でもあり、まだ泊り客は少ないようです。宿の従業員から部屋の準備が早めに出来たと声を掛けられ、14時半にはチェックインさせてくれました。

温泉にゆっくり浸かって、早速部屋では酒盛り。ビール、日本酒、芋焼酎。荷物が重いのなんのと言いながら、不思議と酒とつまみには事欠かない。

すきっ腹にアルコールが良く効くこと！！日本酒を飲んでいた堀さんは、酔いが回ってどうやら25度の芋焼酎をそのまま生（き）でやっていたらしい。



6時、夕食。

まずは地ビールで乾杯。

食事はなかなか豪華ありました。

半澤さん、石井さん、吉松は、ほぼ完食。

芋焼酎を生でやってしまった堀さんは、食事途中からうたた寝。米を食わなければ明日元気が出ないからと、他の3人で無理やり（失礼ながら！）半分ほど食べさせたのでした。



うたた寝をしながらも、かわいいウエイトレスさんとこんなワンショットまでとるしたたかさ。

堀さん、本当に酔ってたの？！

堀さんは本当に酔っていたのです。晩飯をたべたことも、何を食べたかも翌朝な～んにも覚えていないのです。他の3人も部屋に戻ってバタンキュウ。お陰で熟睡できました。